

### 3) 学生会

#### ・工学部学生会の設立と活動状況

2004 年度に、工学部学生支援委員会の指導の下で、全ての学科・系に学生の自治組織である学生会が設立された。2005 年度には、全学の学生委員会から出された「学生の公的組織化の要請」に基づき、各学科・系の学生会を統合した工学部学生会が組織された。この際、各学科の学生会代表が工学部学生会のメンバーとなること、および工学部学生会は、工学部(学士課程)の学生だけでなく、大学院自然科学研究科の工学系の学生も合わせて組織することとした。

工学部学生会の 2010 年度の会長には、中村明日希(工学部情報電気電子工学科 3 年)、副会長には兵頭弘祐(工学部マテリアル工学科4年)、会計に財部虎卯平(自然科学研究科博士前期課程機械システム工学専攻)書記に中村雄一(工学部情報電気電子工学科 3 年)と汐留直樹(工学部数理工学科 3 年)がそれぞれ選出された。

工学部学生会では工学部学生会室を拠点として定期的に学生会会議を行い、工学部学生会の運営方針や各学科の学生会の現状と問題点、今後の工学部学生会の活動内容などについて意見交換を行なっている。また、工学部運動会の運営や留学生との交流会などの自主的な活動を行い、熊本大学フォーラムや夏季の短期留学など熊本大学が主催する行事にも積極的に協力している。また、秋季に開催される工学部長と学生代表の懇談会では工学部の学生を代表して意見や要望を述べ、学生会長と副会長はさらに学長と学生代表の懇談会にも出席している。

#### ・学生会主催による復活第三回運動会

1952 年 10 月 26 日に工学部グラウンドで新制大学の第1回工学部運動会が開催されて以来、熊本大学工学部運動会が開催されてきたが、年々参加者の減少は止まらず 1999 年の第47回運動会を最後に工学部運動会が中止された。1999 年以来、OB や教職員の皆様から度重なる運動会の再開要望もあったが、学生の学科への所属意識が薄れて行き実行委員会や参加者が確保できないなどの問題があり、再開の目処が立たないまま 2004 年には諸般の事情に鑑みて工学部運動会を廃止することが検討され、工業会では積み立てられてきた運動会資金の適正使用について議論されたこともある。

一方、工学部では学生の自治組織を育成するという大学の方針に従い、工学部学生会を積極的に支援してきた。運動会中止の決定の後、学生会はスポーツ大会等の企画・運営を行っていたが、2007 年には運動会再開の声に後押しされる形で、全競技を一日で行う集合型のスポーツ大会を企画した。その際のスポーツ大会の参加者は 200 名を超えており、この種のスポーツ大会のニーズが学生の中に十分にあることが確認された。

2008 年度、学生会は先輩の運動会復活の想いを引き継ぎ、復活第一回工学部運動会を 2008 年 10 月 25 日(土)教育学部附属支援学校のグラウンドで開催した。学生会メンバーにとっては初めての開催であり、その準備を約 3 か月前から始め、種目・運営方法の決定と用具の準備などを行った。当初、競技用具の状態が悪く、工業会の支援を得て団旗や用具を新規に買いそろえた。最も危惧された参加者の募集に関しては、ポスターの掲示、案内文の配布、授業でのアナウンス、学科経由での呼びかけを行い、全学科 550 名の学生と多くの教職員の参加を得た。次年度以降の課題も明らかとなったものの、復活第一回目は成功裏に終わった。そして 2009 年度、前年度の下地を元に、“より盛大に”をコンセプトに復活第二回運動会を 2009 年 10 月 11 日(日)体育の日、武布原グラウンドにて開催した。事前の参加エントリーの学生数は約 900 名にもおよび、直前の大型台風の接近で中止も危ぶまれたが、幸い台風の進路は太平洋側へと反れて、当初の予定通り、朝 8時半の受け付けを経て9時の開会式で幕を明けた。参加学生は、各自が所属する7学科(物質生命工学科、マテリアル工学科、機械システム工学科、社会環境工学科、建築学科、情報電気電子工学科、数理工学科)に分かれ、12 種目の競技で競い合った。熱戦の結果、優勝:物質生命化学科、準優勝:機械システム工学科となり、両角工学部長から優勝旗・賞状・副賞が手渡された。閉会式では、谷口学長が学生諸君へ賛辞を贈

り、大盛況のうちに幕を閉じた。

復活第二回目は、当日の参加者が前年度をはるかに凌ぐ800名を超え、2010年度に、復活第三回目運動会の開催が決定した。この運動会が工学部の行事として継続され、次第に定着していくことを予感させる結果となった。

2010年度の運動会は”楽しんじゃえばよかる〜もん！”をスローガンに参加者全員が楽しめる運動会を目標に2010年10月9日に開催された。2009年度同様に約900名のエントリーがあり、盛大なものとなった。当日は天候にも恵まれ、参加者たちはさまざまな競技に汗を流した。2010度の運動会では徒競争や学科対抗リレー、玉入れや綱引きなどの12競技に加え、社会環境工学科とマテリアル工学科の応援団より演舞の披露が行われた。熱戦の結果、優勝:社会環境科学科、準優勝:マテリアル工学科となり、両角工学部長から優勝旗・賞状・副賞が手渡された。閉会式では、谷口学長が学生諸君へ賛辞を贈り、大盛況のうちに幕を閉じた。

#### ・学部長と学生代表の懇談会

2010年11月12日(月)17:00-19:30 工学部1号館2F共同会議室Aにおいて、学生会と工学部長との懇談会を実施した。学生側から各学科学生会代表、工学部側から工学部長、両副学部長、教務委員長、学生支援委員長、各学科学生支援委員、教務企画係長、教務企画係員が参加した。

教育・学生支援・施設等について各学科の学生会代表から出された様々な要望・提案は、予め工学部長によって14項目に分類され、懇談会でその項目ごとに検討が行われた。各項目については、必要に応じて学生代表から補足説明がなされ、工学部長、副工学部長、各教職員から回答やコメントが述べられた。学科・学部レベルで対応可能な事項については速やかに検討を開始し、全学レベルの問題については学長との懇談会において要望することとなった。中でも、喫煙、駐車/駐輪、ゴミなどのモラルやマナーに関する事項については、工学部内で大々的なマナー向上キャンペーンを実施するなどの案が出され、その企画検討が行われることとなった。

いずれの項目についても、十分な話し合いがなされ、工学部の質の向上に対して、教員と学生とが互いの問題意識を共有することができた。懇談会の主要事項については、11月12日(木)の工学部教授会にて工学部長から口頭で紹介がなされ、後日、全項目に関する検討内容が文書により紹介された。